

【第 50 回セミナー講演および症例提示に関する Q&A】

2019 年 5 月 9 日（木曜日）15:40～18:40

東京ドームホテル 第 2 会場（天空センター）

高橋先生「尿路感染症・性感染症」について

1) ESBL 産生 E.coli に対する内服治療として MINO の選択は有効でしょうか。

回答：

一般的に薬剤感受性試験のデータは比較的良好ではありますが、臨床研究で有効とするデータを見ていません。

「事例検討 2 例目（75 歳 男性）」について：

1) 非定型肺炎を疑った場合にアジスロマイシンとキノロン系薬のどちらを選択すべきでしょうか。

回答：

原則としてはアジスロマイシンが優先されます。キノロン系薬は抗結核作用を有しており、キノロン系薬を多用することによる結核感染診断の遅れは避けなくてはなりません。

レジオネラ肺炎についても第一選択はレボフロキサシンあるいはアジスロマイシンとされており、レボフロキサシンの有効性がアジスロマイシンを上回ることを示した質の高い研究は知る限りありません。ただし、経験的には免疫不全患者に生じたレジオネラ肺炎、あるいはレジオネラ肺炎を強く疑った状況では、キノロン系薬を優先的に投与する/投与されていることが多いです。